

山本弘敏*・鳥居茂樹**： エナガオニコンプ，オニワカメ，フウチョウワカメの新産地 Hirotooshi YAMAMOTO, Shigeki TORII: New records of *Laminaria diabolica* f. *longipes* MIYABE et TOKIDA, *Alaria fistulosa* POSTELS et RUPRECHT and *A. paradisea* (MIYABE et NAGAI) WIDDOWSON in Hokkaido

1982年4月14日，利尻島の利尻町沓形種富町沖合い400 mで，コンブ養殖用ロープ筏のフロートにコンブ属 (*Laminaria*) の1種とアイヌワカメ属 (*Alaria*) の2種が着生しているのを利尻町役場の安達克幸氏が見つけた。当地区の水産技術普及指導所の安住芳雄氏が調べたところ，発見されたコンブ属の1種の葉状部は当地に繁茂するリシロコンブ (*Laminaria japonica* var. *ochotensis*) に似ているけれども，茎状部が異状に長いこと，又，アイヌワカメ属は本来当沿岸に分布していないこと，などにより筆者の一人，鳥居に種の同定を依頼してきたものである。

これら標本のうち，コンブ属の1種は葉長 330 cm，葉幅 21 cm，中帯部は 6 cm でかなり明瞭，葉状部の基部はくさび形をなしている。茎状部は長さ 39 cm，直径 1.3 cm で下端はほぼ円柱状である。葉状部と茎状部に球形の粘液腔道をもっている。

北海道周辺海域に産するコンブ属植物の中で，茎状部がこのように長い種類としてはエナガコンブ (*L. longipedalis*)，ヒメコンブ (*L. longipes*)，エナガオニコンプ (*L. diabolica* f. *longipes*) が知られている。エナガコンブは中帯部が不明瞭なことで，またヒメコンブは匍匐枝をもつことで本標本と異なっているが，本標本はエナガオニコンプのこれまでの記載 (MIYABE 1926, 永井 1936, TOKIDA 1954) とほぼ一致する。

アイヌワカメ類似の海藻は2種見られたが，その内の1種は成体で，葉長 750 cm，葉幅 80 cm，中肋は中空で 1.5~14 cm ごとに隔壁をもっている。これらの形状からオニワカメ (*Alaria fistulosa*) であることが容易にわかった。他の1種は幼体であるが，葉長 120 cm，葉幅 4.5 cm，中肋は実質，成実葉は長さ 3.0 cm，幅 0.5 cm で生長の極く初期のように見うけられる。この成実葉と同じ所に長さ 7.5 cm，幅 1.1 cm，上部に向って漸次不明瞭になる中肋をもつ中性羽枝と思われる葉片を付けている。本標本はこの中性羽枝の存在によりフウチョウワカメ (*Alaria paradisea* = *Pleuropterum paradiseum*) である (WIDDOWSON 1971) と推察される。

今回見つかった種の北海道周辺における記録をみる

と，エナガオニコンプとオニワカメ* は千島及びサハリン (樺太) 南端の西能登呂岬付近から (MIYABE 1926, 宮部 1934, 永井 1936, TOKIDA 1954)，フウチョウワカメは千島から (NAGAI 1940) 報告されているが，北海道沿岸で生育が確認されたのは初めてである。なお，オニワカメの漂着は広範囲に見られるようで，オホーツク海沿岸では時々観察されるとのことである (川嶋 1972)。又，日本海側では寿都から利尻島，礼文島にかけての沿岸で打上げがあったことが報



Fig. 1. A photograph showing Laminarian and Alarian specimens collected at Rishiri Island. A. *Laminaria diabolica* f. *longipes*; B. *Alaria fistulosa*; C. *Alaria paradisea*. (Specimens preserved in glycerin). $\times 1/20$.

* YENDO (1919) と岡村 (1936) は産地として北見および釧路をあげているが，道立網走水産試験場長，川嶋昭二氏からの私信によれば，これは漂着地の記録ではないか，ということである。

告されており(福原 1969), 噴火湾入口の南茅部町沿岸では1981年7月18日に打上げ個体を得られている。

サハリン(樺太)南部沿岸の水温は北上する対島暖流の影響を受けて, 夏季 18°C ぐらいにまで上がるが, 最南端の西能登呂岬付近だけは寒流の湧昇流により夏季でも 6~8°C であるという(MIYABE 1926, TOKIDA 1954)。西能登呂岬付近は, このような水温の条件から, 完全な寒流域の千島に分布する種がみられる特異的な海域といわれている。

この西能登呂岬から宗谷海峡をはさんで南西約 100 kmにある利尻島は対島暖流に洗われるため夏季 20°C 以上になるが, 冬季には寒流の影響がおよび 2°C ぐらいにまで下がる。この状況を反映して, ハイミル, スギモク, ハネソゾなどの暖流系の種が生育する一方, ナガマツモ, エゾインゲ, ハケサキノコギリヒバのような寒流系の種もみられ(金子・新原 1970), 暖寒両流系種の混生海域といえるが, 総体的には暖流の力がかなり上まわっているように見受けられる。

このような海域では海流の時々の勢力の変化につれて海藻の分布の境界も変ることは予想されるところではあるが, これまで知られていなかった寒流系の大型海藻 2 種と 1 品種の生育が同時に確認されたことは当地域の植生の変動を知る上で貴重な記録と考え報告する次第である。

引用文献

- 福原英司 1969. 北海道の日本海沿岸に打上げられたオニワカメについて。藻類 17(3): 126~127.
- 金子 孝・新原義昭 1970. 利尻島の海藻。北水試月報 27(5): 167-178.
- 川嶋昭二 1972. 釧路のさかなと漁業(内, 釧路の海藻)。釧路叢書 13: 223-322. 釧路市.
- MIYABE, K. 1926. On the occurrence of a certain Behring and Kurile species of Laminariaceae in a small isolated region off the southern extremity of Saghalien. Proc. Third Pan-Pacific Sci. Congr.: 954-958.
- 宮部金吾 1934. 北海道及び樺太の昆布科植物に就て。北海之水産 61: 15-19.
- 永井政次 1936. オニコンプの一変型種と其成因に就て。科学 6(11): 464-466.
- NAGAI, M. 1940. Marine algae of the Kurile Islands I. Jour. Fac. Agri., Hokkaido Imp. Univ. 46(1): 1-137.
- 岡村金太郎 1936. 日本海藻誌。内田老鶴圃, 東京.
- TOKIDA, J. 1954. The marine algae of southern Saghalien. Mem. Fac. Fish., Hokkaido Univ. 2(1): 1-264.
- WIDDOWSON, T. B. 1971. A taxonomic revision of the genus *Alaria* GREVILLE. Syesis 4: 11-49.
- YENDO, K. 1919. A monograph of the genus *Alaria*. Jour. Coll. Sci., Tokyo Imp. Univ. 43(1): 1-145.
- (* 041-15 北海道茅部郡南茅部町字白尻 152 北大水産学部白尻水産実験所, ** 097 稚内市宝来 4-5-4 北海道立稚内水産試験場)